

年 組 ( 番 ) 名前

記入日 月 日

# 子ども 自分をどう呼ぶ？

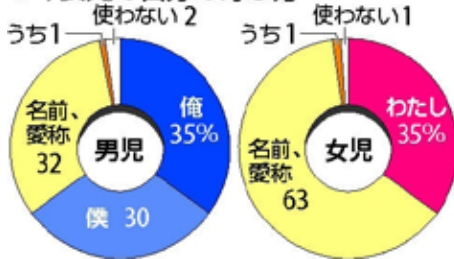
幼稚園に通う5歳の長男が、自分を「俺」と呼ぶのを見て驚いた。友達の影響だろうが、記者が幼い頃は「僕」と言っても、「俺」は恥ずかしくて言えなかったからだ。①「こうした言いにくさはどこから来るのか」。

## 「僕」「わたし」に言いにくさ

家では名前を名乗る小学5年と2年の娘2人はどうか。「人前で『わたし』と言っているか？」と聞くと、うなずく長女に対し、次女はもじもじしながら「3年生になったら言う」と謎の発言。やはり恥ずかしさを感じ

※守さんの調査を基に作成

年長児の自分の呼び方



るらしい。

小学校に勤める女性教員も同じことが気になっているという。「低学年の女児は半数が『わたし』と言えず、自分の名前を呼んでいる。それが恥ずかしいことだと自覚している様子だ」

東京都中野区の男性(32)は中学生になるまで僕も俺も使えず、悩んだ体験をブログにつづっている。「どちらも大人のよう

うにかっこつけているイメージがあった」という。僕・わたし・うち・わし……。自らを指す言葉は「自称詞」という。英語の「I」とは違い、日本語はこうした一人称に

加え、先生・ママなどの職業や名称も含めて無数にある。一般的には成長とともに言葉遣いを習得する中で、自分の性別や年齢を意識し、相手との親密度や場面などに応じて使い分けるようになる。

②それはいつ頃から現

れるのだろう。文化学園長野保育専門学校の守秀子主任教授が2015年、幼稚園・保育園に通う1576人を対象に調査したところ、男女ともに2歳頃から名前や「○○ちゃん」などの愛称を名乗る。年長になると、名前や愛称を使い続けているのは女児が約6割、男児は約3割だった。

守さんは「俺」は「僕」に比べて男らしさをアピールしやすく、男児は成長過程で選ぶことができる。一方、女児は大人の女性と同じ「わたし」だけ。使う際のハードルも高く、名前や愛称を使う

方が自分自身を言い表しやすいと感じているのは」と話す。

また、関東学院大の中村桃子教授(言語学)は、男女ともに自分の呼び方に言いづらさを感じる理由について、その多くに男らしさや女らしさを強調したり、相手との上下

関係を提示したりする観念や意味合いが含まれている点を挙げ、「子どもがうまく使えなくても、親は無理強いせず、『どんな呼び方でもいいよ』と声をかけ、見守ってやってほしい」と呼びかける。

(2022年3月1日 読売新聞朝刊より)

### 1 自らを指す言葉について、次の表にまとめました。

①～③にあてはまる言葉を抜き出しましょう。

(1)		)
(2)	職業・名称	名前・
例：わたし、僕、俺	例：先生、ママ	(3) 例：○○、○○ちゃん

### 2 この記事で記者は、自分が抱いた疑問を示し、それに対する「答え」を探るために様々な取材をしています。

①「こうした言いにくさはどこから来るのか」、②「それはいつ頃から現れるのだろう」の答えを示すために紹介しているのは、次のうちどれですか。それぞれについて、最も適切なものを選んで書きましょう。

- ① 記者と娘2人との会話
- ② 日本語と英語の違いの説明
- ③ 「年長児の自分の呼び方」のグラフ
- ④ 関東学院大の教授の意見

A
B

### 3 最後の「つまり」の後に続く一文として、最も適切なものを選び、番号を書きましょう。

- ① 自称詞は英語にはない日本語特有の言葉なのだ
- ② 愛称は大人でも自己表現として使える言葉なのだ
- ③ 自称詞は自己表現と結び付いた大切な言葉なのだ
- ④ 愛称は年長児から使い分けをすべき言葉なのだ

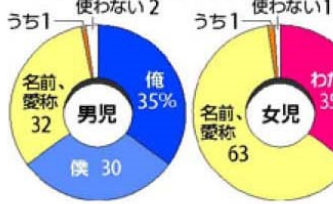
# 子ども 自分をどう呼ぶ?

幼稚園に通う5歳の長男が、自分を「俺」と呼ぶのを見て驚いた。友達の影響だろうか、記者が幼い頃は「僕」と言っても、「俺」は恥ずかしくて言えなかったから。④こうした言いにくさはどこから来るのか。

「僕」「わたし」に言いにくさ

家では名前を名乗る小学5年と2年の娘2人はどうか。「人前で『わたし』と言えているか?」と聞くと、うなずく長女に対し、次女はもじもじしながら「3年生になったら言う」と謎の発言。やはり恥ずかしさを感じ

年長児の自分の呼び方



※守さんの調査を基に作成

東京中野区の男性(30)は中学生になるまで僕も俺も使えず、悩んだ体験をブログにつづっている。「どちらも大人のようにかっこつけているイメージがあった」という。僕・わたし・うち・わし……。自らを指す言葉は「自称詞」という。英語の「I」とは違い、日本語はこうした一人称に

小学校に勤める女性教員も同じことが気になっているという。「低学年の女児は半数が『わたし』と言えず、自分の名前を呼んでいる。それが恥ずかしいことだと自覚している様子だ」。東京都中野区の男性(30)は中学生になるまで僕も俺も使えず、悩んだ体験をブログにつづっている。「どちらも大人のようにかっこつけているイメージがあった」という。

守さんは「俺」は「僕」に比べて男らしさをアピールしやすく、男児は成長過程で選ぶことができる。一方、女児は大人の女性と同じ『わたし』だけ。使う際のハードルも高く、名前や愛称を使う

⑧それはいつ頃から現れるのだろう。文化学園長野保育専門学校の守秀子主任教授が2015年、幼稚園・保育園に通う1576人を対象に調査したところ、男女ともに2歳頃から名前や「〇ちゃん」などの愛称を名乗る。年長になると、名前や愛称を使い続けているのは女児が約6割、男児は約3割だった。

加え、先生・ママなどの職業や名称も含めて無数にある。一般的には成長とともに言葉遣いを習得する中で、自分の性別や年齢を意識し、相手との親密度や場面などに応じて使い分けるようになる。

方が自分自身を言い表しやすいと感じているので「と話す。また、関東学院大の中村桃子教授(言語学)は、男女ともに自分の呼び方に言いづらさを感じる理由について、その多くに男らしさや女らしさを強調したり、相手との上下

関係を提示したりする観念や意味合いが含まれている点を挙げ、「子どもがうまく使えなくても、親は無理強いせず、『こんな呼び方でもいいよ』と声をかけ、見守ってやってほしい」と呼びかける。つまり、

1 自らを指す言葉について、次の表にまとめました。①~③にあてはまる言葉を抜き出しましょう。

① 自称詞		
② 一人称	職業・名称	名前・愛称
例:わたし、僕、俺	例:先生、ママ	例:〇〇、〇〇ちゃん



自らを指す言葉(全体)を「自称詞」といいます。②は「こうした一人称」がどこを指すか少しわかりにくいですが、手前の「僕・わたし・うち・わし……」を指すので「一人称」。下の段で、名前と並べて示されているのは「愛称」ですね。

2 この記事で記者は、自分が抱いた疑問を示し、それに対する「答え」を探るために様々な取材をしています。④「こうした言いにくさはどこから来るのか」、⑧「それはいつ頃から現れるのだろう」の答えを示すために紹介しているのは、次のうちどれですか。それぞれについて、最も適切なものを選んで書きましょう。

- ① 記者と娘2人との会話 A ④
- ② 日本語と英語の違いの説明
- ③ 「年長児の自分の呼び方」のグラフ B ③
- ④ 関東学院大の教授の意見

円グラフは「自分の呼び方」が、年長児で様々な形に「分かれてきている」ことが示されています。

自分の呼び方には、相手との関係など、様々な「観念や意味合い」が含まれていると説明されています。どのような意味を込めるかは、自分で決めて良い、がヒントです。

3 最後の「つまり」の後に続く一文として、最も適切なものを選び、番号を書きましょう。 ③

- ① 自称詞は英語にはない日本語特有の言葉なのだ
- ② 愛称は大人でも自己表現として使える言葉なのだ
- ③ 自称詞は自己表現と結び付いた大切な言葉なのだ
- ④ 愛称は年長児から使い分けをすべき言葉なのだ

読んでみよう!

◆ミー太郎のおすすめ記事

## 配偶者男性 なんと呼ぶ?

主人、亭主、旦那……。配偶者である男性の呼び方はいろいろあるが、若い世代を中心に「夫」と呼ぶ人が増えているという。女性の社会進出や、共働き世帯の増加が影響しているようだ。なんと呼ぶのが適当なのか? 最近の動きを探ってみた。  
(野口季瑛)

### 生活 調べ隊

「夫さんが家に帰ってきたら、今日は私を思い出したか聞いています」。声優で元AKB48メンバーの佐藤亜美菜さん(30)の明るい声が流れてきた。佐藤さんはインターネットラジオの番組で、2年前に結婚した男性を「夫さん」と呼んでいる。この呼び方は、数年前に話題となったテレビドラマで使われたこともあり、徐々に広がっているようだ。

保育事業を手がける認定NPO法人「フローレンス」(東京)は4年くらい前から、職員の間で「主人」を「夫」や「パートナー」に言い換えている。人事担当者は「パートナーは事実婚やLGBT(性

## 「主人」減り 「夫」増加 背景に女性の社会進出

的少数者)の職員も使いやすいようだ」と話す。こうした取り組みをすることで、多様な人材を確保することにもつながるといふ。

文化庁が1999年、全国の既婚女性約900人に行った調査で、配偶者を主人と呼んでいたのは75%。一方、調査会社「インテージリサーチ」が2017年に既婚女性約3300人を対象にした調査では、主人と呼ぶ人は23%だった。調査母数などが異なるため単純な比較はできないが、主従関係を示す意味もある言葉に違和感を覚える人が増えたとみられる。

(2021年3月30日、読売新聞朝刊より)

自分の「呼び方」だけでなく「家族の呼び方」も様々です。

時代とともに、変化していくのは興味深いですね。

